

大根の間引きをしませんか

園 長 小 島 澄 人

「大根の間引きをしませんか」、この案内は本当に久しぶりです。長年やってきたことですが、中断していて5, 6年前かな、いや10年前ぐらいかもしれません。今現在、学園で約12000本の種を植えました。一か所に3, 4粒の種を植えますので、あの立派な大根になるには、大根の白い部分が見える前ぐらいに一本にする必要があります。大変な数ですので男性の先生方の苦労も半端ではありません。時折、先生と子どもたちも参加して間引き体験をもしていましたが、なぜかコロナのこともあり中断していました。大切な一本にするには集中している時間が必要で、丁寧に抜いていくことが求められます。自分たちが食する大根の成長を見守り、世話する、大切な保育だとも考えます。また間引きしたその大根の葉はまた野菜として、お味噌汁に、また炒め物に、いろんな調理を経て保育室で、また家庭の食卓をいっぱいしてくれます。お母さんが参加して収穫したものを子どもと調理するのもいいかも。

柿の実は10月4日と14日に行いますが、夢の森でも、玉川中央でも企画してみてもいいと思います。保護者が幼稚園の農育に関わり、自然に触れるのも素晴らしい。大根掘りをする子どもたちを想像すると、大きなものを必死に抜く姿、またそれを一生懸命に家まで持ち帰る、すごいことだと思います。お家の人に見てもらおうと、お料理してもらおうと、大きな大根を自分が抜いたこと、大変だったこと、いっぱい話したいことがあるでしょう。「ねえねえ聞いてよ教えてよ」のごとく、先生と子どもたち、そして保護者にとその会話は子どもの育ちを、先生方は保育の充実を実感するでしょう。

その大根は地域の方々に2本、バス停ごとに周りの方々にも配られます。その数は2000本余りです。地域あつての幼児教育、周りの理解なくしては幼稚園もやっていけません。音楽の音、子どもたちの歓声、笑い声、またバスの発着、バス停ではどうしても一年間いや何年もお世話になっています。迷惑かけたりすることもありますし、春にはジャガイモ、秋には大根をお配りしています。幼稚園には多くの方からお礼の電話やお手紙が届きます。しかし迷惑かけてはいますので、過去40年あまり続けてきました。今は恩返し農園、三輪農園、小野路農園、と広がりたくさんの幼稚園や保育園も大根の育ちを楽しみにしています。

今回は大根のことばかりですが、幼稚園にはたくさんの野菜やたくさんの果実に囲まれていて、季節ごとに子どもたちは楽しみにし、収穫していますが、まだイチジクのおいしい実は子どもたちには届きません。たくさん実りますが人手不足で、また子どもたちにはその存在を伝えてはいません。

運動会の練習の合間に今は柿と栗の収穫、楽しんでいます。運動会、楽しみですが、今回は皆さんには見せられない一面ですが、「大根の間引きしませんか」の紹介となりました。まだの方は間に合います。一緒に収穫を楽しみ、大根の成長の一端を体験し、子どもたちの大根を抜く姿、楽しみたいです。満三歳の子どもたちは親子での大根の収穫です。また楽しみです。